

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101518		
法人名	社会福祉法人 紀三福社会		
事業所名	紀三井寺苑グループホーム	【ユニット名: II号館】	
所在地	和歌山県和歌山市紀三井寺617-3		
自己評価作成日	平成28年1月9日	評価結果市町村受理日	平成28年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は桜の名所でも有名な紀三井寺の近くに位置する2ユニットのグループホームです。春には花見客で賑わいます。利用者様も花見に出かけたりします。花見以外にも、楽しみを持って、活気のある生活を過ごしていただけるように、毎月、季節感を感じる行事やレクリエーションを実施しております。グループホームでの生活は9人1ユニットとして共同生活をさせていただく中で、これまでの在宅での生活の延長と捉え、家事などのお手伝いや身の回りのことなど出来るところは自己にて行っていたように支援しています。また、生活での不便が出てきたところは職員が支えとなり、利用者様、家族様が安心でき、個々の目標・希望に応じた生活が送れるよう支援させていただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成28年1月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2000年に開設された1号館のユニットに加えて2012年に2号館のユニットが増設されており、建物の構造もそれぞれ異なっていて、それぞれのユニットが独立した形で運営されている。グループホームの利用者が自分でできることは自分でいき、その人らしい生活が出来るよう、一人ひとりの気持ちに寄り添ったケアの提供に努めている。年に2回家族会が開かれ、家族間の情報交換や職員との交流も図られている。同敷地内には特別養護老人ホームの施設があり、法人全体で小学生との交流や夏祭りの開催など地域に根差した行事が開催されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人とグループホームとの理念を掲示版に掲示して、職員皆で共有をはかっている。	ユニットごとに理念を掲げ、地域交流、その人らしい暮らし、笑顔で過ごせる暮らしを大切にして、利用者の思いに沿ったケアが提供できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育所の運動会に参加させて頂いたり、事業所主催のふれあい教室や夏まつりには地元の方々が行事に参加して下さいと、地域との交流に取り組んでいます。	地域の人がホームを訪れることは殆どないが、地域交流には法人全体で取り組み、敷地内の施設で開催されているふれあい教室では月に一度小学生との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が実施している介護者教室で地域の方や家族様を対象に認知症についての勉強会を行い、地域での認知症の理解の広報に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者の家族の方、民生委員の方、地域包括センターの方などに参加していただき、グループホームの現状、事故、行事での利用者の様子など報告し、問題点や対応策などを話し合い、意見を聞きながら、サービスの向上に努めている。	2カ月に1回開催しており、年2回の家族会の日にも開催するようにしたことが家族の参加につながり意見を聞く機会が増えている。民生委員の意見を取り入れ、レクリエーションの種類も増えた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度やサービスに関する問題点など分からないことがあれば、相談させていただいています。事業所内での事故報告などさせて頂いています。	市役所に出向き、事務的な用件での連絡や報告を行い、分からないことがあれば相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊や帰宅願望の強い利用者の方の見守りをしたり、散歩などの声かけをして気分転換をはかって頂く支援をし、安全に過ごして頂けるよう取り組んでいます。	スタッフ会議で話し合い、拘束しないケアに取り組んでいる。日中は玄関の鍵をかけず自由を妨げずに安全確保ができるよう見守っている。利用者が外に出れば分かるよう、玄関にセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所やグループホーム内でも人権擁護、虐待防止についての勉強会を行い、虐待の防止に努めている。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：Ⅱ号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の方の権利について職員1人1人が、しっかり理解できるように勉強会などを通じて学んでいきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族様が納得していただけるように、十分な説明を行い、家族様の要望や疑問点なども合わせて尋ねている。改正等があった際にも、どのように変わるのか説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の様子を手紙に書いたり、面会時に様子を報告したりして家族とのコミュニケーションをとっている。2か月に1度、運営推進会議を行い、家族様や民生委員の方々などに参加して頂き、意見を頂いています。出された意見はスタッフ会議等で職員全員で共有し、サービス向上につなげています。	年に2回の家族会や2か月に1回の運営推進会議の中で家族の意見が出されている。往診の支払いを施設に持参してもらう際など、直接家族の声を聞くことができる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議で業務や利用者の方へ対応の仕方などを話し合いを行っています。日々気が付いた点などもその都度、職員が意見を出し合いながら話し合いを行っています。	ミーティングやスタッフ会議などで出た意見を運営に反映できるよう、管理者は常に職員の声を聞く姿勢を持っている。毎月順番に2名の担当者が食事のメニューや行事の企画を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課を行い、実績や目標、希望などについて話し合い、向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームの部署内で月に1回、勉強会を行い、法人内での月1回の勉強会、随時行われる研修にも参加し、外部の講座、研修にも参加し、技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流をもてるように努めている。同法人内での相互の連携強化、交換研修を行い、サービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前の面談にて、ご本人、家族から日頃の様子や生活歴、身体の様子や病気の事などを聞き取りし、グループホームでの生活での要望などをうかがい、入居してからも安心して生活して頂けるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、家族の要望、思いをしっかり受け止めてケアにつなげていくことで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族様からの聞き取り、話し合いから必要な支援を見極め、場合によっては他のサービスの利用を含めた対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれ役割分担をして頂きながら共同生活を送り、学んだり、支え合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で日頃からご利用者様の様子や状態を伝え、家族様からも話しをうかがい、一緒にご本人を支えて行けるような関係を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は時間に制限なく、いつでも訪ねて来て頂けるようにしています。家族様以外の馴染みの方にも来て頂けるような環境を作っています。	スタッフの笑顔、明るい声かけで、家族や知人が訪問しやすい雰囲気となっている。職員はユニット専従で、職員と利用者の馴染みの関係も大切にしている。	実際に馴染みの人に会ったり、馴染みの場所へ行くことはできなくても、会話の中で思い出し、言葉にできる支援も期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の皆さんは、ほぼ日中ダイニングで過ごされており、個々の性格や利用者同士コミュニケーションの取り方などを考慮して、スムーズに関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、その後の様子確認や相談等に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の方々の思いや意向は日々の関わりの中で本人に尋ねたり、上手く伝えられない方には表情や言動から汲み取るように努めている。又、日頃の言動や様子などを生活シートに記入し把握に努めています。	みんなと過ごす日常生活や、スタッフと1対1で話しができる入浴時など、あらゆる場面で言葉や様子から、一人ひとりの思いを知り、ケアに反映できるよう生活シートに残して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方について、ご本人や家族様から聞き取った情報や基本情報をもとに、これまでの生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の様子を記載する生活シートを用いて、一人一人の1日の生活の流れを把握し、心身の状態や出来る事、分かる事に注目し、その方全体の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者が望む生活を送って頂けるように、ご本人、家族様から希望や意見を聞き、課題となる事に関わるみんなでも話し合い、介護計画の作成に活かしています。	月に一度のスタッフ会議で、生活シートを参考にして利用者3名ずつのケアについて話し合っている。利用者や家族の意見を踏まえてスタッフ会議での検討内容を反映させた介護計画を作成している。	一人ひとりのできること、得意なこと、したいことを取り入れ、利用者がより主体的に生活できる計画となることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の方、それぞれについて毎日の生活の様子や心身の状況、ケアの実践、結果など記録し、ミーティングやスタッフ会議で話し合い、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に柔軟に対応できるよう、看護師や主治医と随時連絡を取り合い連携の強化に努め、ご本人や家族様がその時望む生活を継続していけるよう支援しています。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：Ⅱ号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関や行政機関などを活用し、利用者の方が、その人らしい生活を送れるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族様に希望する主治医を選んで頂いています。利用者の状態を家族様、主治医に随時報告し、適切な医療を受けられるように支援している。	殆どの利用者が、協力医療機関の医師をかかりつけ医としており、月に2回の往診を受けている。歯科衛生士も定期的に訪問しており、必要に応じて歯科医が往診し治療している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者の状態を報告、相談し、適切な受診や日々の健康管理など状態の変化に応じた看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際など、入院前の様子や生活の様子、既往歴、グループホームでの支援の内容など速やかに伝達、報告しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人、家族様などお元気なうちから話し合いを行うようにしています。ご本人、家族様の意向を踏まえた上で、医師、看護師、介護職員が連携し、チームとして支援に取り組んでいます。実際にそのような状況になった際には話し合いをすすめ、再確認を行っています。	重度化の場合は、家族と相談の上、設備面の充実した特別養護老人ホーム等に移れるよう支援している。事業所での看取りは行わない方針で、常時医療的な処置が必要になったときは、対処できる医療機関への入院等を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の訓練や、疾病に応じた初期対応の勉強会などを行っています。急変時の対応に備え、職員間でもその事態に応じた対応の仕方なども話し合っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難誘導や経路の確保など訓練を行っている。	法人全体での避難訓練は行われているが、事業所として、利用者を交えた訓練の実施はまだできていない。	実際に行ってみて気付くこともあり、災害時の安全確保に向けて、実際に近い訓練が実施できることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーに関わること、排泄のことなどは、その人にしか聞かれぬように場所を選んだり、小さい声で話したり気をつけています。一人一人の人格を尊重して不適切な対応をしないように気をつけています。	利用者の気持ちに配慮して声掛けしている。安全面を考えてⅠ号館ではトイレのドアの大部分を鍵がかからないように、またⅡ号館では居室ドアに中が窺える小さな透明ガラスをはめ込むなどしている。	安全管理の方法によっては、プライバシーの確保ができず、利用者に不安感や抑圧感を与える場合もあり、それを踏まえた支援が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物にお誘いし、欲しい物を選んで頂いたり、外食や喫茶の利用等の時、好きな食べ物を選んで頂いています。また、誕生日のプレゼントなど欲しい物をきいたりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の大体の時間は決まっているが、利用者の気分や体調により、希望にそえる支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後や翌日に着る服などは、本人に希望をきいて用意をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れ、メニューを考えている。調理の下準備や食器拭きなど、出来る範囲で手伝って頂いています。	スーパーへの食材の買い物に利用者が同行することもある。調理や準備、片づけも殆ど職員が行うが、利用者が手伝うこともある。職員と一緒に同じ食事を楽しんでいる。	さらに、食の話題で皆のコミュニケーションを円滑に、また、テーブル拭きや配膳など、利用者がより主体的に動き、生活リハビリとなる取り組みを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、一日の水分の摂取量を毎日チェックしており、摂取量の少ない方には十分に摂ってもらえるように促している。その人の好みの物や形態を工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて、自分で歯磨きをしたり、入れ歯を洗ったり、入れ歯を洗浄剤に浸けたりしている。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：Ⅱ号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄の状況をチェックして、排泄のパターンを把握している。トイレへ行く間隔が長くならないように声をかけたりしてトイレでの排泄を促している。	できるだけトイレで排泄できるよう支援している。夜間の排泄は一人ひとりの状態や習慣に合わせて、希望に沿った支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の状況をチェックしている。便秘予防のために、毎日、ヨーグルトやバナナなどの果物、乳性飲料などを提供している。体操などの運動もしてもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望にそって入浴して頂き、清潔にすごしてもらるように支援している。	利用者はそれぞれ週に2回程度入浴できるよう支援している。嫌がる人にもタイミングをみて声掛けし入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動して頂き、夜にぐっすり眠れるように支援している。状況や希望に応じて日中も休息をとって頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴の一覧と一緒に服薬内容も記載してある。個人ファイルに服用薬品名カードを閉じている。薬の変更などあった際には申し送りのノートに記載して全員が周知するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に合った家事などを手伝って頂いたり、好きなことをして過ごして頂き、張り合いのある日々を送って頂く支援をしている。又、レクリエーションや毎月の行事に参加して楽しんで頂き、季節感を感じたり、気分転換をはかって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行ったり、車でドライブに出かけたり職員が付き添って行っている。また、本人の希望に添い買い物や喫茶の利用などの支援を行っている。家族様にも協力して頂き、買い物や食事などに連れて行って頂いている。	紀三井寺遊歩道での散歩、買い物、喫茶店など、月に一度は外出できるよう支援している。外出できない時も、表で金魚に餌やりをしたり、プランターの花植えをしたりすることで、外気に触れることができるようにしている。	

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：Ⅱ号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望に応じて金銭の所持をしてもらっている。希望があれば職員が付き添って外食に行ったり、買い物に行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキの購入したり、投函したり代わりに行ったりしています。本人、家族の希望があれば電話をつないだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが過ごすダイニングには季節の物を取り入れ、見て喜んで頂けるような空間づくりをしている。	I号館とⅡ号館は建物が別で構造も違う。掃除が行き届き、リビングは広く採光や温度を快適に過ごせるよう調節している。Ⅱ号館は居室部分とリビングが離れており、利用者は日中殆どの時間をリビングでカラオケを楽しむなどして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや玄関のフロアで思い思いに過ごして頂けるよう居場所作りを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や趣味の本などをお持ち頂き、居心地よく過ごせるように支援しています。	居室内はそれぞれの馴染みの物や気に入った物を配置して、居心地良く整えられている。I号館では日中も各自の居室で過ごす利用者が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱する事のないよう家具などの配置、建物の構造を考慮して、安全に生活して頂けるように支援しています。		